## 森林から持続可能なエネルギーを――町民が学ぶ「自然エネルギー学校」開講

「自然エネルギー学校・うちこ」（内子町主催）が2月23日、内子町森林組合小田支所で開かれ、11月から試験運転を始めた内子バイオマス発電所を題材にした、講演と見学会が行われました。

初めに㈱森のエネルギー研究所の大場龍夫さんが、全国の事例を紹介しながら、未利用材を有効活用する同発電所の意義を説きました。その後、参加者は同発電所所長の内藤昌典さんの案内で施設を一周。全国でも先進的な設備の説明に耳を傾け、興味深そうに見学していました。

ペレットで発電する機械の仕組みなどを説明する内藤さん（左）

## まちの景観は、まちの意志から景観を創る意味を考える公開講座

参加者から多数の質問があり、景観づくりへの理解が深まった

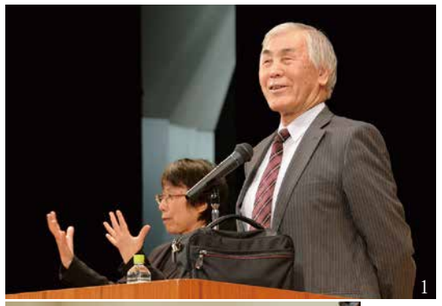
「愛媛大学COC公開講座in内子」（愛媛大学主催）が3月23日、内子自治センターで開かれました。景観を創る意味を考えようと、八日市・護国町並保存センターの西岡真貴さんと愛媛大学社会共創学部助教の片岡由香さんが講演しました。

片岡さんは松山市の花園町通りの景観づくりを例に「使い手になる人を巻き込んで関心を高めることや、その地域で暮らす人がその景観を好きになることが大切。空間を持続的に使うことで空間の質が上がり、価値が高まる」と話しました。

## 光は必ず見えてくる――差別のない町と人を育てる研究大会

「平成30年度内子町人権・同和教育研究大会」（内子町人権教育協議会他主催）は3月2日、共生館で開かれ、420人が参加しました。

「一人ひとりの人権が尊重される心豊かなまちづくり・人づくり」を主題に、大瀬中学校動画メッセージ、内子高等学校人権委員会の課題研究や人権クイズがありました。講演会には、NPO法人ヒカリカナタ基金理事長の竹内昌彦さんが登壇。小学生の頃に網膜剥離で失明した自身の経験を交えながら「命は自分のものだけでなく、親や祖先から受け継いできたもの。自ら絶つようなことをしてはいけない。私もいじめられたが、一人で抱えず、苦しさを誰かに伝えることで道が開けた。必ず光は見えてくる」と力強く語りました。



1_温かな口調で来場者の笑いと涙を誘った竹内さんの講演　2_高校生の人権クイズで盛り上がる会場

お詫びと訂正　3月号掲載の"ソフトボール協会優秀選手賞"の記事にお名前の誤りがありました。お詫びして訂正します。誤：菊地天馬さん→正：菊池天馬さん





小田地域の活性化が主な任務です

## 「do it 書店」の活用から内子町のリノベーションへ

岡山　紘明さん（24）

現役の東京大学院生です。大学を休学して地域おこし協力隊に挑戦しています。動機は大学の活動で内子町にお世話になり、人や風景、食べ物が好きになったことです。特に農村風景は心に訴えかけるものがあります。私の田舎は荒廃してしまったけれど、内子の山の集落は美しいです。高齢の皆さんの暮らしを守る姿とプライドに尊さを感じます。自分が大切にしたいのは、これだと思いました。

これから小田商店街の旧土居書店を拠点に、空き家の活用や商店街の活性化などに取り組みます。「do it 書店」と名付けて、貸本屋と喫茶店をしようと計画しています。本が好きな人や地域の人たちが気軽に集まれる場所にしたいです。建物も立派なので、ぜひ遊びに来てください。

私の目標は、30歳までに内子町を牛耳ることです（笑）。内子町の大好きな場所や景色が残せるよう、町を進化させたいと思います。経験不足で頼りない部分が多い私ですが、内子町で輝いている人たちが応援してくれるような人物になれるよう頑張ります。大学卒業後も内子町に住みたいので、皆さん仲良くしてください。

「ここを皮切りに小田地域を盛り上げたい」と意気込む岡山さん

泉谷の棚田の保全に取り組みます

## お金で買えない棚田の価値その魅力を世界に伝えたい

香川　顕夫さん（54）

独立行政法人国際協力機構（JICA）で働いていました。海外ボランティアを派遣したり、相手国の政府との調整などが仕事です。元々は地方公務員でしたが、旅行好きが高じて、世界中の国や人と接したいと思い転職。57カ国を訪れました。アフリカのマラウイやマダガスカル、イギリスのロンドンなどの事務所には、通算で約7年間勤務しました。

内子町の地域おこし協力隊に応募したのは、泉谷の棚田に感動したから。上岡さん夫妻の人柄やこれまでの尽力、若い人や都会の人との交流活動、地域や役場の人が一緒に守り育てていること、すべてが素晴らしいと思います。

いろいろな国を歩いて、日本では農業が軽んじられていると改めて感じました。食料は命をつなぐ欠かせないものなのに、それが足元から崩れようとしています。棚田を守ることで、米の価格では計れない棚田の価値を発信することが、私の役割だと考えます。棚田から世界に思いをはせる――。そんな人が増えたらいいなと思います。そのために早く人並みに米を作れるようになって、泉谷の棚田が10年後も今と同じ姿であるように頑張りたいです。

「御祓地区の人たちがまいたレンゲの開花が楽しみ」と香川さん